

106 No. 4: 日本食の人気定着 - 規制少なく魅力の販路 - (平成 29 年 6 月 13 日)

今、健康志向の高まりから、世界中で日本食ブームが起きている。今回は、香港の日本食事情や当事務所が関わった業務について紹介したい。

香港は、長い間イギリスの植民地であったため、多様な食文化を受け入れることには比較的寛容な面がある。通りには世界各国の飲食店が軒を連ね、さまざまな食材が流通している。

香港でも日本食の人気は高く、日本食を提供するレストランが非常に増えており、約 1290 店もの日本食レストランがある。「日本の食品は質に優れ、安全性が高い」ということが浸透しており、特に、富裕層と中間層から絶大なる信頼と人気を得ている。

さらに、香港は食料の大半を世界各国からの輸入に頼っており、香港の輸入相手国としての日本の割合は、中国に次ぐ 2 位と非常に高く、スーパーでも日本の食品は何でもそろろうといっているほど充実している。香港の人口約 735 万人のうち、日本人の割合は 0.37% の約 2 万 7 千人程度にすぎないため、日本の食品のターゲットは日本人向けというよりは、香港人など外国人向けとなっている。

このように香港では、日本の食品が受け入れられ、多くの日本の食品を取り扱う香港企業も増えてきていることから、日本の食品を輸出するチャンスが広がっていると言えるだろう。

当行の取引先企業の多くも香港への商品の輸出を検討しており、当事務所にも多くの相談がある。

ある取引先からは「香港に商品（洋菓子）を香港に輸出したい」との相談を受けた。そこで、当事務所では、初めに香港内の市場調査と情報の提供を行い、香港で開催される展示会への参加を提案し、出展サポートを行った。さらに、香港内の日本食を取り扱うバイヤーに、直接、商品の売り込みを行うなど、販路の開拓を側面からサポートした。

現在、香港では、日本の食品を取り扱う業者が非常に増えており、日本の食品の需要はますます増えている。香港は輸入規制も少なく、日本の食文化も浸透していることなどから、日本の食品の販路拡大先として魅力的なマーケットであると言える。

当事務所では、日本の食品を取り扱っているスーパーや日本料理店、それらに納入している商社などとのコネクションを通じて、海外販路拡大をサポートしているので、海外への輸出を検討する際には、ぜひ相談してほしい。

伊藤 孝雄(いとう たかお)

足利銀行香港駐在員事務所所長。

明治大卒。1993 年足利銀行入行。三菱東京UFJ 銀行香港支店、みずほコーポレート銀行（現みずほ銀行）香港支店への出向、市場国際部などを経て、2015 年 4 月から現職。とちぎ未来大使。47 歳。栃木市出身。



【スーパーの陳列棚に並ぶ
多くの日本のお菓子】